

令和6年度朝霧野外活動センター指定管理者候補者選定委員会（1次審査） 議事録

日 時 令和6年9月30日(月) 午前9時30分から正午
場 所 県庁西館8階教育委員会議室
出席委員 松永委員長、松田委員、楠城委員、戸田委員、兼高委員、宮崎委員、
藤ヶ谷委員（委員7人全員出席）
事務局 青少年育成班 小出班長、大塚教育主査、村田主任

— 開 会 —

— 教育部理事挨拶 —

— 協 議 —

【審査方法の確認】

- ・1次審査の得点は、委員が採点した点数の平均点を参考に、話合いで得点を決める。
- ・評価した点、評価できなかった点、不明な点等については、意見交換を行う。
- ・意見交換の上、申請者の得点を決定する。
- ・質問等については、2次審査のヒアリングの中で確認していただく。

【事前採点の平均点】

ア:①9点 ②8点 合計17点
イ:①4点 ②4点 ③④4点 ⑤4点 合計16点
ウ:①10点 ②8点 合計18点
エ:①②8点 ③④8点 合計16点
オ:合計17点
総合計84点。

【委員意見交換】

○ア①「基本方針」についての評価

(委員長) これまでやってきている部分の評価した。

(委員) 私は何点にするか迷ったが、書いてある内容は、県の教育計画を基にしていて完璧だと思った。

(委員) 基本的に前回と一緒の点数をつけた。前回と比べて、すごく変わっているかと言われると変わっていないと感じた。

(委員) この17年継続してやってきている中での課題や指定管理者としての意見を次回聞きたいと思っている。

(委員長) 絶対評価のように点数をつけたが、妥当であると思う。

(委員長) ア①は、協議の結果9点とする。

○ア②「平等な利用の確保」についての評価

(委員長) 青少年教育施設として生涯学習の拠点であるが、人口のボリュームのある高齢者や成人の利用者を増やしていかないと、少子化の中で、子供や学校利用だけではやっていけなくなる。こういうところで、あえて学校が

利用してるときに大人の団体とバッティングさせて、ゆうべの集いなどでコラボすることや文化的な利用目的の団体で、富士山が近いから、短歌の会などでロビーを使うだけでも良いと思った。平等に県民誰もが使用できる施設として、視野を広げるように工夫したらどうか。

(委員長) ア②は、協議の結果8点とする。そのため、ア①は9点、ア②は8点で、合計17点とする。

○イ「施設の効用を最大限に発揮できる事業計画」①から⑤についての評価

(委員) キャンプ協会なので、やむを得ないかもしれないが、キャンプばかりでそれ以外の提案はないと感じた。

(委員長) 同じく自然文化で地元を生かした事業の提案もほしい。キャンプばかりだという印象を受けた。利用者の拡大、確保に関する取り組みの中で今まではキャンプをやっているが、もっと文化的な取り組みを増やす等考えがあるか聞いてみたい。

(委員長) 広報でアピールをしているという点で、利用者数確保のための宣伝方法の具体策が見えて来なかった。

(委員) イ①②について、自主事業は長年やってるので、朝霧の特性をよくわかった上で多くの提案をしてくれたところは、高く評価したい。しかし、事業の中身がよいかわからないところもある。イ④では、具体的な利用者目標を定め、増やそうと具体的な計画を立てている。具体的な数値目標を掲げているのはとても良い。

(委員) 利用時期のピークは、どこも競って予約をするため競争率も高く、そうではない閑散時期は当然ある。そこをどう埋めていくのかは、自主事業だと考える。提案では、防災プログラムやSDGsを挙げているが、実際それがどこまで効果があるか、具体的なプログラムになっているのか、また雨天時のプログラムをいくつか挙げているが、それが利用者側や学校側からすると満足度が高いものになっているのかどうかまだ見直しの余地もある。

(委員) イ②は、雨天時のプログラムが少ないと感じた。イ④は、閑散期はどうするのか、具体的にどうするのかわからなかった。イ③は、月曜日の休所日を柔軟に使っているが、この時代それをやることは職員の福利厚生が補償されるのか心配である。

(委員) イ②で、いろいろなプログラムがあり、利用者のニーズに合わせて短時間でできる使いやすいプログラムをたくさん開発してくれた。私が利用したときに、土砂降りだったのでもう少し室内の新規プログラムがあると良いと感じた。イ③では、3連休は休まず、8月は休所日を設けていないが、所員の働き方が気になる。イ⑤については、利用者の立場からすると、何か特別感があまり感じられなかった。

(委員長) 開所日・休所日の設定について私も気になった。利用者側に寄り添ってくれているが、今のご時世、働く職員の健康管理も配慮できているほうが安心であり、職員の働き方について事情を聞きたい。

(委員長) 職員の働き方やチラシの作成、呼び掛けについてどうなっているのか、2次審査で質問したい。

(委員) 防災プログラムのSDGsを読んでみて、数字マークがついているが、ど

のように教育に生かすのか書かれていないので、申請書だけでは表現しきれないような気がした。

(委員) 利用者の立場からすると SDGs の同じ項目ばかりでどのように生かすのかが具体性に欠けるので、2次審査で質問したい。

(委員長) イ①～⑤は、協議の結果各4点で、合計16点とする。

○ウ②「経費縮減に関する提案」についての評価

(委員) 経費削減の具体策は、LED化ぐらいしか読み取れなかった。県がやることと指定管理者がやることが少しわかったが、よく見えてこなかった部分もある。また、類似施設の運営はしていないということで低くつけた。

(委員) 今までも経費削減のために努力をされていて、すでに進めているので、この先やる余地は少ないという事情がある点も考慮したい。

(委員) 毎年LED化をやっていて、それでもまだ削減してきたということで高く評価した。個別に見ていくと修繕料はこんなに低くして大丈夫か?と不安もある。しかし、まだアナログなところがあり、今後DX化が進んでいけば印刷製本がかなり削減につながっていくのではないかと思う。

(委員) 審査項目にある経費の縮減に関する提案は適切かと言われるとあまり新規の提案がないので、低く点数をつけた。提案というところで具体性にかけるが、努力はしていないというわけではない。

(委員) 利用者の満足度について書かれていない。ただ安くすればいいではなくて、利用者のことを考えてくれているのか気になった。

(委員長) 指定管理者としても、老朽化が進んでいる施設をどう運営するかとなると経費がかかるのではないかと、ということが心配される。また類似施設への実績はないと書いてあるが、日本キャンプ協会グループとしてはないかもしれないが、構成団体と合同企業体のようにいろんなところで事業されているので、そのノウハウを日本キャンプ協会と情報共有しているなど、書いてくれてもよかった。

(委員長) ウ②は、協議の結果8点とする。また、日本キャンプ協会グループ内の棲み分けが明確ではない記述もあったので、2次審査でその苦労やノウハウの蓄積、他の類似施設の情報を使用しているかどうかを質問する。

○エ①「財産的基盤」②「類似施設運営の実績」についての評価

(委員) 財政的基盤については、委員の意見を聞いてから決めたい。類似施設の運営がなくても、財政的に安定した経営ができるということがわかれば点数を上げたい。

(委員) 財政的基盤は大丈夫だと思う。実績はないから0点という考え方もあるが、5年間の重大事故の発生事例がないという部分を評価して点数をつけた。

(委員) 様式5で令和3・4・5年度の収支実績が記載されているが、令和4年度の収支を見れば赤字で運営していたのか。

(委員) 赤字ではあるが、財産の余力があるので、大丈夫であると思う。

(委員長) 類似施設の運営をどう評価するのか、皆さんいかがか。

(委員) 類似施設は運営してなくても、この施設を運営している実績があるので、類似施設がなくても十分この施設をやっていく能力は確認できる。

(委員) これまでの実績が安定しているのです、5年間指定管理ができないというような状況ではないと思う。安定した運営と判断し、この点数にした。

(委員) キャンプ協会の組織がしっかりしている。組織がしっかりしていて、委託料を確保して安定的に運営している。

(委員長) 類似施設の運営実績はないようだが、構成団体での活動があり、朝霧を拠点として活動している。また、それぞれの目的に沿った人材育成を行い、各都道府県の指導者養成を行っていて、それが管理運営に繋がっていくという発想があれば、ここに書いてもよかったのではないか。

(委員長) エ①②は、協議の結果8点とする。

○エ③「施設運営の組織体制」④「利用者の個人情報保護」についての評価

(委員長) 職員は足りているのか疑問に感じた。適切な配置人数があり、必要だがこの人数でカバーしているということがあれば聞きたい。

(委員) 気になったのは、オリエンテーリングをたくさんプログラムとして提供しているが、オリエンテーリングインストラクターを取得している職員は、一人しかいないことが気になった。

(委員長) 個人情報については大丈夫だと思うがいかがか。

(委員) 今の管理は、アナログ的なところで最低限できていると思った。例えばサイバーセキュリティーに対する対策が取れているのか、何かあったときに不安があるため、2次審査で聞いてみたい。

(委員長) サイバー犯罪もどんどん巧妙化しているので確認した方がいい。

(委員長) それでは、職員数が足りているのか、個人情報の取り扱いについては次回質問する。

(委員長) それでは、協議の結果エ①②は8点、エ③④は8点で、合計16点とする。

○オ①「利用者の安全確保」についての評価

(委員長) 過去5年間重大事故がなかったというところで高い点数をつけた。安全管理についてはオ①「利用者の安全確保」の6ページしかなく、「利用者の手引き」にマニュアルがあると書いてあるだけでよくわからなかった。また、活動最中にケガがあった場合は、利用団体代表者が直接医療機関に連絡するのか聞きたい。

(委員) 利用者は、センターを通さず、利用者団体が直接医療機関に行く。

(委員) 事故対策として、センターに養護教諭の配置のような施策を考えていないのか。学校から行くときは養護教諭がついてくるが、センターのほうで、人を置くことができないのか。

(委員) 県が養護教諭配置をお願いしない限りその予算はなかなか難しい。しかも県立4施設になると難しいのではないか。

(委員長) 防災訓練も活動プログラムの中に入れてやるのもいい。年に2回の防災訓練だけでなく、もっと防災訓練をやって、富士山が近いという特殊な事情もあるので、いろんなパターンを考えて実践し、その防災キャンプのノウハウとして生かしてやるなどの提案があってもいい。キャンプをやる人からすると、自然の中ではこうなるのが当たり前だから気にしないでという人もいれば、みみずやへびがいるだけで、びっくりする人もいるので、

非常事態の設定がいろいろあると思う。

(委員) あまり害虫対策ができていないように感じた。

(委員) マニュアルの整備をこちらから言わなくてはいけない。マニュアル通りできているかは管理監督責任であるかと思う。

(委員) マニュアルの富士山噴火のところをもう一度確認してもらいたい。この地域は富士山の噴火警戒レベルが1から3に上昇した際に、下山地域(入山規制の地域)に当てはまるか。もし当てはまらないならば、事業を中止して帰るようにしているので強めになっている。これで本当に正しいかどうか確認されたほうがいい。

(委員) この前の南海トラフ地震臨時情報(注意)が出たときの対応が、県立4施設でバラバラの対応になり、注意情報マニュアルを見直さなければならない。

(委員) それでいいと思う。南海トラフ地震臨時情報(注意)であれば、平時の生活を続けて、これまで通りの生活で防災に対して確認が取れていればいい。ただ、三ケ日は海に近いので帰すというのはあり得る話で、そこは各自で対応し、その場合事業を止めるかどうかは、地域の違いや考え方の違いが出てくるので、見直すなら見直されたほうがいいと思う。

(委員長) 備蓄とかはできているのか。また避難所になるのか。

(事務局) 避難所としては指定されていない。2年前に初めて富士宮市と避難所協定を締結しているが、それは二次避難のときに空いていたら駐車場と体育館を貸すというもの。全体的に避難所とはならない。

(委員) 短期的な対応は、宿泊している人がいるわけだから、2、3日分の食料ぐらいはあるのか確認したい。

(委員長) マニュアルを一度確認してみたい。

(委員長) それでは、今は協議の結果両方の項目8点で、合計16点とする。

【協議後の採点結果】

ア:①9点 ②8点 合計17点

イ:①4点 ②4点 ③④4点 ⑤4点 合計16点

ウ:①8点 ②8点 合計16点

エ:①②8点 ③④8点 合計16点

オ:合計16点

総合計81点。

(委員長) それでは日本キャンプ協会グループを1次審査通過とする。

【第2次審査方法の確認】

- ・プレゼンテーションとヒアリングの内容を加味して採点していただく。
- ・委員が採点した点数の平均点を参考に、話し合いで得点を決める。
- ・本日意見の中で出てきた質問内容は、事務局でまとめ、2次審査の際に代表質問として、委員長から申請者へ質問をする。

— 閉会 —